

青山学院大学シンギュラリティ研究所主催

## 来るべき世界：科学技術、AI と人間性

The Shape of Things to Come: Technology, AI and the Human

### 開催のお知らせ

「来るべき世界：科学技術、AI と人間性」は、人類が技術的特異点を迎えるにあたって、これからの社会や人間のあるべき形を考え、新たな未来を創造するためのプロジェクトです。現代美術のフィールドで活躍する作家たちによる展覧会と連動して、様々な分野の専門家たちによる領域を横断した講演やトークイベントで未来の姿を予測、検証し、来るべき世界に備えることを目的としたイベントを開催いたします。

あらゆる時代において、人々はテクノロジーとそれが彼らの生活に与える影響を懸念してきました。H.G. ウェルズの古典的な作品であるスペキュレイティブ・フィクション『来るべき世界』の中で、彼はその作品が執筆された年から 2106 年まで未来の形について考察しています。ウェルズは、大量破壊兵器の開発のように既実現されたことや、英語が国際語として政治的に強制されるといったまだ実現されていないことなど、様々な出来事に関する予測を行っています。

2019 年はウェルズの予測のちょうど中間点であり、未来を見直す好機です。ウェルズの予測は、社会的・政治的現象に焦点を合わせていましたが、この展覧会では、社会的・政治的構造の基本単位としての個人に焦点を当て、特に、人間個人と彼らが創造的表現のために依存し利用する技術との関係に着目します。

現在の技術的ツールは新しい種類の芸術的表現を可能にしており、そのいくつかは、この展覧会で示されることとなります。さらに、人工知能と AI アプリケーションの開発によって、アーティストは新しい種類の自律性を作品に取り入れることができるようになり、新しい芸術的概念の探求を可能にしています。最後に、AI や AI 関連ツールの存在は、人類の本質に加え、「自然的なもの」と「人工的なもの」の間での適切な関係の在り方に疑問を投げかけています。この展覧会では、これらの分野の作品を集めて、それらの作品の間でのダイアログの場を創出します。

会期中の毎週末には、シンギュラリティ研究所の研究者による、様々な分野、領域を横断する連続トークイベントを行います。テクノロジーと創造性との交わりに加えて、AI 時代に我々はいかに生きるかを考えていきます。みなさまのご来校をお待ちしております。

## ごあいさつ

私たち青山学院大学シンギュラリティ研究所は、本展「来るべき世界：科学技術、AI と人間性」の開催を心より楽しみにしています。現在、人工知能と先端技術は私たちの社会と世界に対しお互いに影響を与える方法において、大きな変化を引き起こしています。本展の参加作家たちは、これらの変化や、AI とその研究機関がもつ制約や絶え間ない検証への社会的価値や透明性、あるいは（人工）知能と身体性の関係に対して、さまざまな視点を与えます。私たちはここに展示される作品がこうした議論に対する鑑賞者の思考を澄ませ、いま生きている世界と使用している技術との結びつきを明らかにすることに役立つことを望みます。

青山学院大学シンギュラリティ研究所共同所長

McCREADY, Elin S. 教授

2018年4月、青山学院大学にシンギュラリティ研究所が開設されました。人工知能（AI）が飛躍的に進化する近未来において、人間はどう生きるのか、社会はどうあるべきか、といった課題に対して、多様なアプローチで研究を進めています。本展において展覧会とともに行われる連続トークイベントは、当該分野の第一人者から最先端の話を伺う機会となるだけでなく、研究所の各プロジェクトによる研究の成果・経過を発表する場でもあります。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

青山学院大学シンギュラリティ研究所共同所長

野末俊比古教授

## 開催概要

### 〈展覧会〉

#### ● 出展作家

国内外で活躍する8作家9名の現代美術作家が参加いたします。それぞれの略歴は下記につづきます。

エキソニモ

岡本光博

硬軟

小林健太

中村洋子

ノガミカツキ+渡井大己

藤倉麻子

Susan Ploetz

#### ● 会期

2019年11月16日(土)～12月15日(日)

最終日をのぞく会期中の日曜日、祝日は展休日といたします。

#### ● 開催時間

11:00～17:00

#### ● 会場

青山学院大学 青山キャンパス

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4丁目4-25

電話：03-3400-1204（青山学院大学研究推進部）

#### ● オープニングイベント

出展作家を交えて、作品と展覧会を解説するトークイベントを開催いたします。

日時：11月15日(金) 17:00～

会場：青山学院大学青山キャンパス6号館610教室

#### ● ディレクター

McCREADY, Elin S.（青山学院大学シンギュラリティ研究所共同所長／青山学院大学文学部教授）

#### ● 展覧会コーディネーター

癸生川 栄（eitoeiko）

#### ● 宣伝美術

乗田菜々美

#### ● ウェブサイト

青山学院大学シンギュラリティ研究所 [www.agusi.jp](http://www.agusi.jp)

#### ● 協力

WAITINGROOM

eitoeiko

#### ● お問い合わせ

青山学院大学研究推進部研究推進課

メールアドレス：[agu-tkk@aoyamagakuin.jp](mailto:agu-tkk@aoyamagakuin.jp)

## 〈連続トークイベント〉

最先端社会をめぐる問題点を精査しその解決にむけて探求するシンギュラリティ研究所の研究者とゲストによるトークイベントを展覧会と並行して連続開催いたします。申込方法や会場の教室、追加のイベントにつきましてはシンギュラリティ研究所のウェブサイト (<http://www.agusi.jp/>) でご確認ください (10月中にご案内します)。いずれも参加無料です。

### AI時代の「自律性」[社会情報学会の定例研究会(理論部門)との共催]

「自律性」という言葉は人間の尊厳を支える意味でも使われますし、AI やロボットの特徴としても使われます。『AI時代の「自律性」』(勁草書房 近刊)をもとに、自律性を通して未来を考えます。

日時: 11月22日(金) 18:30~20:00

会場: 14号館(総合研究所ビル) 12階大会議室

谷口忠大(立命館大学教授) / ドミニク・チェン(早稲田大学准教授) /

河島茂生(シンギュラリティ研究所副所長 / 青山学院女子短期大学現代教養学科准教授)

### EUのAI倫理方針

2019年4月8日にEUで設置された専門委員会から「AIの倫理方針」が発表されました。その方針の内容を紹介して、特異点との観点から分析します。2019年10月発表原稿「特異点とEUのAI倫理方針」参照。

日時: 11月29日(金) 18:30~20:00

会場: 17号館 17308教室

LENZ, Karl F. (シンギュラリティ研究所研究員 / 青山学院大学法務研究科教授)

### 実践 機械学習 × ブロックプログラミング

AI時代には、プログラミングが必須のスキルとなります。実際に手を動かして、ブロックプログラミング環境 Scratch で機械学習を体験してみましょう。まだプログラミングに触れたことのない方のご参加をお待ちしております。

日時: 11月30日(土) 11:00~12:30

会場: 女子短期大学マルチメディアI教室

吉田葵(シンギュラリティ研究所研究員 / 青山学院大学社会情報学部助教)

### AI × クリエイティビティ

AIと創作の関係は未来を左右します。そもそも情報とは、あるいは創作とは何でしょうか? 創作物を使うルールはいかにあるべきでしょうか? 参考: 『AI × クリエイティビティ』(高陵社書店 近刊)

日時: 11月30日(土) 15:05~16:35

会場: 17号館 17311教室

久保田裕(コンピュータソフトウェア著作権協会専務理事・事務局長) /

長尾玲子(日本文藝家協会) /

河島茂生(シンギュラリティ研究所副所長 / 青山学院女子短期大学現代教養学科准教授)

### AI と地図 ～なぜ Googleマップのナビゲーションは不完全なのか～

人工衛星やドローンが空を飛び交い、ほぼリアルタイムに地上の様子が見えるようになってきたこの時代に、我々はコンピュータが自動作成する次世代の地図とどう付き合っていけばよいのか、その裏側の世界をシェアします。

日時：12月6日 ㊦ 18:30～20:00

会場：17号館 17308 教室

古橋大地（シンギュラリティ研究所研究員／青山学院大学地球社会共生学部教授）

### 学生企画：最先端を駆け抜ける！

学生たちは、彼ら／彼女らの目線で未来を見つめています。企業の方を招いて AI サービスの戦略を聞いたり、学生たちが日頃考えていることを発表します。未来に活躍する学生たちの声を聞きにきてください。

日時：12月7日 ㊦ 13:20～17:00

会場：17号館 17310 教室

招待企業：資生堂ほか ※ライトニングトークあり

### AI 倫理

AI が大きな社会的影響を及ぼしはじめています。私たちは、そうした社会のなかでの倫理をいかに考えていけばよいのでしょうか。『AI 倫理』（中公新書ラクレ 2019）をもとに語り合います。

日時：12月13日 ㊦ 18:30～20:00

会場：17号館 本多記念国会議場

西垣通（東京大学名誉教授）／

河島茂生（シンギュラリティ研究所副所長／青山学院女子短期大学現代教養学科准教授）

### 近未来の図書館と新しい学びに向けて

“アクティブラーニング”に象徴されるように学びが変わろうとしています。どのように変わっていくのか、学びを支える図書館には何ができるのか。皆さんと一緒に考えていきます。

日時：調整中

野末俊比古（シンギュラリティ研究所共同所長／青山学院大学教育人間科学部教授・図書館長）ほか

### アースブックプロジェクトのめざすもの（仮題）

産学共同プロジェクトであるアースブックプロジェクトは、地球儀型のデジタルインターフェースを用いた次世代図書館の蔵書検索システムのプロトタイプを開発中です。開発の様様について、最先端の AI の話を交えながら報告します。

日時：調整中

齋藤由多加（シンギュラリティ研究所客員研究員／人工知能クリエイター）ほか

## 〈展示作家略歴〉

### エキソニモ

千房けん輔と赤岩やえにより1996年東京にて結成されたアート・ユニット。現在はニューヨークを拠点に活動する。インターネット黎明期よりネットそのものを題材に作品を制作・発表。ハッキング的な手法を得意とし、2000年以降は実空間での展示やパフォーマンスも行う。例えば Google のトップページを「インターネットの風景画」としてピクセル細部までアクリル絵の具で再現した《Natural Process》など、デジタル空間と物理空間をユーモラスに接続する手法に際立ったセンスを見せる。2012年より10数名のアーティスト等からなるコミュニティ「IDPW（アイパス）」を組織し、ネット上の商習慣を比喩的に実空間へと侵入させた「インターネットヤミ市」を開催、現在までに世界20以上の都市へと広がっている。主な参加展覧会に「あいちトリエンナーレ 2019」、「ARTPORT: SUNRISE/SUNSET」（ホイットニー美術館 2019）、「ハロー・ワールドポスト・ヒューマン時代に向けて」（水戸芸術館現代美術ギャラリー 2018）、第4回恵比寿映像祭「映像のフィジカル」（東京都写真美術館 2012）、「世界制作の方法」（国立国際美術館 2011）など。受賞多数。

[www.exonemo.com](http://www.exonemo.com)

### 岡本光博

1968年京都生まれ。1994年滋賀大学大学院教育学修了後、渡米。アート・スチューデント・リーグ・オブ・ニューヨークにて学ぶ。帰国後にCCA北九州リサーチ・アーティスト・プログラムに参加。その後インド、ドイツ、スペインのアーティスト・イン・レジデンス・プログラムに参加。沖縄、台湾滞在を経て、2012年京都にアーティスト・ラン・ギャラリーKUNST ARZT をオープン。近年の主な個展に「GEIST」（ギャラリーターンアラウンド仙台 2018）、「THE ドザえもん展 TOKYO 2017」（eitoeiko 2017）、「UFO」（同

2018）、参加展覧会に「福岡城まるごとミュージアム」（福岡 2018）、「ラブラブショー2」（青森県立美術館 2017）など。2019年は「日本ポーランド国交樹立100周年記念ポーランド芸術祭 2019 セレブレーションー日本ポーランド現代芸術展」（ロームシアター京都、スターリ・ブロウヴァル トラフォ）、「あいちトリエンナーレ 2019 <表現の不自由展・その後>」、「美少女の美術史」（北師美術館 台湾）に出演。

[www.okamotomitsuhiro.com](http://www.okamotomitsuhiro.com)

### 硬軟

千葉大二郎（1992年東京生まれ）によって発足したアートユニット。現在は一人で活動する。2014年多摩美術大学卒業。2016年東京芸術大学大学院美術研究科修了。共に専攻は日本画。個展「トリプルネットワークゲル」（eitoeiko 2015）に出品した作品「絵を描くビッグフット」が月刊ムーPLUS に紹介される。つづく「トリプルショートハンド」（同

2017）で速記に注目し、日本速記協会発行による「日本の速記」表紙画を手がけるようになる。月刊ギャラリーに「硬軟の5年間」が掲載（2018年11月号）される。2019年の個展に「期待される人間像」。参加展覧会に「BARRACKOUT」（2016-17）、「いわきまちなかアートフェスティバル玄玄天」（2017）、「おだわら城町アートプロジェクト」（2017）、「漂白する私性 漂泊する詩性」（横浜市民ギャラリー 2018）、「マルチシャッター」（EUKARYOTE 2018）、「META 日本画のワイルドカード」（千葉大二郎として参加 神奈川県民ホールギャラリー 2019）など。

### 小林健太

1992 年神奈川県生まれ。東京と湘南を拠点に活動。「真を写す」とは何か、という問いとして写真を捉え、様々な試みの中からその輪郭を縁取っていく。主な個展に「Photographic Universe」(Fotografia Europea 2019 レッジョエミリア 2019)、「自動車昆虫論／美とはなにか」(G/P gallery 2017)、「# photo」(同 2016)。参加展覧会に「ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて」(水戸芸術館 2018)、「GIVE ME YESTERDAY」(フォンダツィオーネ・プラダ・ミラノ 2016)、「New Material」(ケースモア・カークビー サンフランシスコ 2016)など。主なコレクションに、サンフランシスコアジア美術館など。写真集に「Everything\_1」(Newfave 2016)。

[www.kentacobayashi.com](http://www.kentacobayashi.com)

### 中村洋子

1950 年石川生まれ。1971 年東横学園女子短期大学(現東京都市大学)国語国文学科卒業。1972 年同家政学科専攻科卒業。1976 年中村錦平に出会い、造形を始める。陶芸から出発し、現在は屋外でのインスタレーションを制作する。野外展「雨引の里と彫刻」に 2006 年より 2008、2011、2013、2015、2019 と毎回参加。グループ展に「WOMAN POWER」(Hanjeon Art Center ソウル 2009)、モンゴル文化芸術大学でのスライドレクチャー(2012)、「生への言祝ぎ」(大分県美術館 2016)、「House on the sea」(加藤亮との二人展 トキ・アートスペース 2018)、コレクションに Fred Marer Collection (Scripps College 米国)、愛知県陶磁美術館(旧愛知県陶磁資料館)、慶熙大学校産業大学(韓国)、アルゼンチン近代美術館日本の家(アルゼンチン)、目黒区美術館、Soed Te ミュージアム(韓国)、二期倶楽部など。著作に『MESH/CLAY/FIRE - 中村洋子のやきもの』(美術出版社 2001)。

<https://www.nakamura-yoko-mesh.com/>

### ノガミカツキ+渡井大己

#### ノガミカツキ

1992 年新潟生まれ。2015 年武蔵野美術大学映像学科卒業。コンコーディア大学(モントリオール) Topological Media Lab メンバー。ベルリン芸術大学に留学しオラファー・エリアソンの Raumexperimente に所属する。2016 年第 19 回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門新人賞(group\_inou のミュージックビデオ「EYE」)を制作。橋本麦との共同名義)。2018 年フォーブス・ジャパン「世界を変える 30 歳未満 30 人の日本人」に選出。FILE、WRO、Scopitone、International Festival Spain などの国際展に参加。国内では六本木アートナイト(2014)、Future Catalysts Hakuodo×Ars Electronica、札幌国際芸術祭関連企画など数多くの展覧会に参加している。受賞多数。本展ではコラボレーターにメディアアーティストの渡井大己を迎え、SNS を素材にした作品「Monologues」を発表する。

#### 渡井大己

1985 年静岡県生まれ。メディアアーティスト、テクニカルディレクター。早稲田大学大学院文学研究科修了。テクニカルディレクターとしてグローバルブランドをはじめとしたファッションショー、インスタレーション、ライブ等、広告・エンタメ分野での演出や開発を多く手掛ける。アーティストとしてはプログラミングやデバイスを駆使し、テクノロジーがもたらす未来とオルタナティブな世界を具現化する作品群を制作。第 18 回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出。Prix Ars Electronica にて Honorary Mention(荣誉賞)を受賞。

## 藤倉麻子

1992年埼玉生まれ。2016年東京外国語大学南・西アジア課程ペルシア語専攻卒業。

2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。工業製品が自律運動を行う様子を描き出し、道具から道具性をはぎとり、日常において忘却される都市の存在を示す作品を制作している。第22回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出。個展に「エマージェンシーズ！035《群生地放送》」（ICCインターコミュニケーションセンター 2018）、「functional, primitive」（Ask?P 2018）。主な参加展覧会に「PHENOMENON:RGB展」（ラフォーレミュージアム 2019）、「Artists in FAS 2018」（FAS 藤沢 2018）、「ll.wall」展（ガーディアンガーデン 2018）、「MEC award 2018 入選作家展」（Skip シティ映像ミュージアム 2018）。上映に「TOKYO ANIMA！2019」（国立新美術館 2019）、「ヤング・パースペクティブ2018」（イメージフォーラム）  
[www.asakofujikura.tumblr.com](http://www.asakofujikura.tumblr.com)

## Susan Ploetz

スーザン・プレッツは進化型 LARP と身体的実践を用いて、具体化したシミュレーションと協働する世界の構築を通じたアーティストック・リサーチを行っている。彼女の作品は多層的な法則と感覚を持ち、身体と精神をつなぐインタラクション、インターフェースとテクノロジーとしての想像力、知覚の拡大、手続き上の表現と感情的な不調和の解放を扱っている。

プレッツはマルティン・グロピウス・バウでの Berliner Festspiele、ストローム・デン・ハーグ、ベルリン芸術大学、パーヴェイシブ・メディア・スタジオ（ブリストル）、Sophiensaele、ABC Art Fair、Dutch Art Institute、Saas-Fee Summer Institute of Arts、DOCUMENTA（13）、Portland Institute for Contemporary Artなどで作品を発表し、講演し、教鞭をとり、またパフォーマンスしている。

[www.susanploetz.com](http://www.susanploetz.com)

## 〈同時期開催イベント〉

### 青山学院大学ジェロントロジー研究所講演会

#### 少子超高齢社会を支える革新的サイバニクス

～人とテクノロジーが共生するテクノ・ピアサポート～

#### 講師：山海嘉之

筑波大学システム情報系教授、サイバニクス研究センター研究統括、CYBERDYNE（株）代表取締役社長／CEO。筑波大学サイバニクス研究センター長、内閣府 ImPACT：革新的研究開発推進プログラム プログラム・マネージャー、内閣府 FIRST：最先端サイバニクス研究プログラム研究統括、日本ロボット学会理事、行議員、欧文誌 Advanced Robotics 理事、委員長等を歴任。日本ロボット学会フェロー、計測自動制御学会フェロー、世界経済フォーラム Global Future Council (Production)、第四次産業革命センター（サンフランシスコ）センターパートナー。

日時：11月16日 ④ 14:00～15:30

会場：青山学院大学青山キャンパス9号館4階940号室

※要事前申込

主催：青山学院大学ジェロントロジー研究所

後援：青山学院大学シンギュラリティ研究所

※詳細は青山学院大学ジェロントロジー研究所のウェブサイトでご確認ください。

<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/2019/09/01/event19continuouslecture/>

### 教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム 2019

#### 「データを活用した教育の実践」

青山学院大学附置情報メディアセンターでは教育研究機関における情報化のあり方について、多様な議論を深めることを目的に「教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム」を開催しています。第6回となる今回は「データを活用した教育の実践」をテーマとして、データを活用した学びの実践と、そのための統計とソフトウェアの利活用に焦点を当て、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長椿広計教授による特別講演「データとソフトウェアを活用したデータ分析教育で何をどう教えるか？—予測型分析を例に一」を予定しています。なお、シンポジウムの後には情報交換会も開催します。

講師：椿広計（統計数理研究所所長）

日時：12月14日 ④ 午後

※参加費無料

※要事前申込

※詳細は青山学院大学附置情報メディアセンターのウェブサイト内で案内します。

※当日名刺を2枚お持ちください。学生の方は学生証をお持ちください。

主催：青山学院大学附置情報メディアセンター

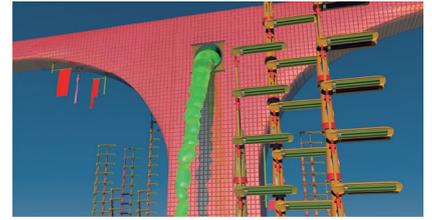
<https://www.aim.aoyama.ac.jp/>



エキソニモ  
Click and Hold 2018  
© exonemo, Courtesy of the artist and WAITINGROOM



小林健太  
個展「Rapid Eye Movement」(東京 2019) より  
© Kenta Cobayashi



藤倉麻子  
参考作品「群生地放送」より 2018



岡本光博  
トラローブ 2019  
撮影：来田猛 © 京都芸術センター



中村洋子  
雲の声は柔らかい (部分) 2019  
学内中庭に展示予定



Susan Ploetz  
参考写真 Larping AI 実践風景



硬軟  
「アテブラーズ」より 2018



ノガミカツキ+渡井大己  
Monologues 2019  
平成 30 年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業

